



〒892-0841
鹿兒島市照国町13-42
カトリック鹿兒島司教区
電話099 (226) 5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間千共1100円



司教の手紙

律法と預言者を完成させるキリスト

鹿兒島教区司教 中野裕明



教区の皆さま、お元気で
しょうか？ 10月8日は私
の満2年の司教叙階記念日
です。アツという間に過ぎ
去った2年間でした。この
間にいただいた皆様のお祈
りとご協力に感謝申し上げ
ます。

さて、今回は私たちの信
仰について、現状を考察
し、未来に向けた方向性を
分かち合いたいと思いま
す。基礎になるのはもちろ
んイエスの言葉です。
「わたしが来たのは律法
や預言者を廃止するため
だ、と思つてはならない。
廃止するためではなく、完
成するためである」(マタ
イ5・17)。
律法というのは、言うま
でもなく「神の十戒」のこ
とです。
この「十戒」はイスラエ
ルの民がエジプトでの奴隷
の状態から解放され、自由
な身分になった時、民の指
導者モーセが神から賜った
ものです。神が授与する前
に、次のような導入があり

- 「わたしは主、あなたの神、あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出した神である」(出エジプト20・2)。
 - つまり、イスラエルの民をエジプトの奴隷状態から導き出したのはモーセではなく、わたしである、という主張です。
 - 爾後、イスラエルの民は、この神の十戒に従って国造りをする事になりま
 - すが、その内容を思い出しでみましよう。
 - 1戒 わたしのほかに神があつてならない。
 - 2戒 あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない。
 - 3戒 主の目を心にとどめ、これを聖とせよ。
 - 4戒 あなたの父母を敬え。
 - 5戒 殺してはならない。
 - 6戒 姦淫してはならない。
 - 7戒 盗んではならない。
 - 8戒 隣人に関して偽証してはならない。
 - 9戒 隣人の妻を欲してはならない。
 - 10戒 隣人の財産を欲してはならない。
- (カトリック教会のカテキズム要約 2233~222)

人は自分に関心のある事柄や好みの情報のみを選択し、自分に都合の悪い情報は無視できる環境にあります。教皇フランシスコは、世界の貧困に苦しんでいる人々に無関心であつてはならないと警告している一方で、「SNS」上での「うわさ話」には加担しないようにとの注意を促しています。

神の十戒の話に戻りますが、最初の3戒は神に対する人間の側の義務です。

司教と語るひとの時

中野司教が紫原教会を司牧訪問

紫原教会では、主日のミサを「密を避けるため」、主任司祭山口好信神父の配慮で、6時半、9時、17時の三回に分けて行つてい

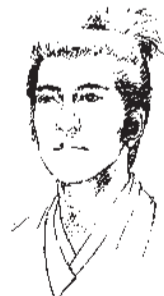
る。しかし、8月23日は司教の司牧訪問ということ

で、ほとんどの人が9時のミサにあずかり、久しぶりの司教の説教に興味深く聞き入った。

ミサ後はそのまま聖堂で司教との対話が行われた。まず主任司祭が教会の現状を会計面、運営のやり方、課題についての説明から報告した。その後、信徒が用意した16項目の質問すべてに司教に丁寧に答えていた

だいた。この対話は予定の時間をオーバーするほど熱の入ったものだった。質問のひとつに「小教区

福者レオ七右衛門
殉 教 祭 ミ サ
11月15日 (日) 10時30分
場所 カトリック川内教会
司式 中野裕明司教
(インターネットで配信)



※おことわり
川内教会の信徒のみ来場できます。他の教会の方はインターネットを通じてご参列ください。

着任した大司教は、精力的に働き、鹿兒島教区でも郡山司教の退任と中野司教の叙階に尽力された。

駐日教皇大使帰天

チエノットウ大司教
今年の5月8日から病気が円滑に回復するためのルー

霧島彬神父(鴨池教会助任司祭)は、9月6日付で法務代理及び司教秘書

司祭の消息

▼寝占敦之神父 (志布志教会主任)は、8月23日に胸の痛みを訴え鹿兒島医療センター(鹿兒島市城山町)に搬送された。神父は2年前に胸部大動脈瘤の手術を

九州豪雨募金
7月に熊本南部を中心に九州全域に甚大な被害をもたらした豪雨では、死者が60人を超え、85にわたる河川が氾濫するなど、各地で土砂災害や家屋の損壊、浸水被害が相次いだ。

シノドスニュース

▼合同部会
9月13日(日)午後、シノドスの3部会(信仰、典礼、宣教)が互いの進捗状況報告と連携を図る「合同部会」が教区本部で開催された。

▼霧島彬神父(鴨池教会助任司祭)は、9月6日付で法務代理及び司教秘書

▼典礼部会
シノドス典礼部会(部会長・栃尾泰英神父)は、9月20日(日)午後、教区本部で部会を開催した。

▼合同部会
9月13日(日)午後、シノドスの3部会(信仰、典礼、宣教)が互いの進捗状況報告と連携を図る「合同部会」が教区本部で開催された。

▼田原 章神父
引退して鹿兒島市内に居住している田原章神父は、3月22日に脳梗塞を起こし

▼合同部会
9月13日(日)午後、シノドスの3部会(信仰、典礼、宣教)が互いの進捗状況報告と連携を図る「合同部会」が教区本部で開催された。

▼田原 章神父
引退して鹿兒島市内に居住している田原章神父は、3月22日に脳梗塞を起こし

▼合同部会
9月13日(日)午後、シノドスの3部会(信仰、典礼、宣教)が互いの進捗状況報告と連携を図る「合同部会」が教区本部で開催された。

差別主義と平等主義 (7)

紫原教会主任司祭

山口好信

これまで西欧中世世界におけるカトリック教会の特徴(変質)を見てきました。キリストは「解放」をもたらすために来たはずなのに、当時の教会は「抑圧」のための機関になっていた。

11世紀から13世紀を頂点として中世末にかけて「制度としての教会」は最盛期を迎えたとされます。それがヒエラルキーとしての教会、聖職者優位の階層的教会であり、第二バチカン公会議まで続いてきた教会です。私が神学生のお世話になった石井健吾神父(O.F.M.)が翻訳した「新世界カトリック教会史」(ポーケンコッタ著)に次のよう

「中心となる問題は、権威についてであった。教皇ヨハネス23世と第二バチカン公会議が現れるまで、典型的カトリックは、教会の権威主義的構造を神の啓示による命令と理解していた。彼らは、教皇の人間を超える権力者で、その言葉はみな超自然的権威に裏付けされた命令と思っていた。司教までも、彼らは恐怖の念で見えていた。このような状況の中でも、部外者の眼にはしばしば中世的と映る教会内の慣行となつて君主制のやり方に疑問を持つカトリック者は、ほとんどいなかった。例えば、司教が司教区を個人の領土として支配するという主張に文句をつけられ、同じことが小教区を運

営する主任司教にも当てはまった。しかし第二バチカン公会議で民主化革命の種子が播かれた。特に何よりも神の民全体としての教会が強調され、教会の全員の間の対話が求められ、教皇と司教達との団体が主張され、司教評議員と俗人を含む司教委員会の設立が要求された。」

現在必要なのは民主化して対話ですよ、と。それはひとまず置いて、引用文の中に「権威」という言葉が何度か出てきました。教皇や司教は権威をもって命令し、あたかも君主のように振る舞った。どういう論理で、そのような権威主張ができたのか、そこが問題です。

前回の教区報で、キリストに向かつて異端審問官は「お前には、もう昔言ったことに何一つ付け加える権利はないのだ」と言いました。つまりキリストは天に帰るとき、使徒たちに「あとは任せよ、頼んだよ」と言つて去つた。その使徒の後継者である教皇・司教に教会運営の権威を与えたのだから、キリストにはもう出番はないよ、と異端審問官は主張したのでした。源である委任者キリストを無視・抹殺して自分の考えでやっていくという。使徒継承による「制度としての教会」の聖職者は奉仕者ではなく奇妙な支配者となつていった。

中世から遡って、使徒後の時代を見てみましょう。96〜98年頃書かれたローマのクレメンスの手紙(I、

42〜44)によると、「使徒たちは初めの改宗者らを霊によつて吟味したのち、未

来の信者たちの監督あるいは執事として任じた。」そしてその後も「吟味の結果、信用のおける他の男

が、彼らの任務を継承するようにと命じた。」「使徒たちにより、あるいは定評のある男たちによつて全教会の同意のもとに立てられた者たち、そしてキリストの群れに、非難される点もなくへりくだつた心をもつて平静に公平無私に仕え、また多年にわたり立派に証言されてい

る者」なら、監督として問題ないと言つています。十分吟味され、信用できるといふ全教会の同意のもとに監督(司教)は任命されていたのです。また、アンティオキアの司教だつたイグナテオス

はトラヤヌス帝の治下(98〜117年)に捕らえられ、死刑判決(獣と闘うというもの)を受け、ローマに護送される途中で諸教会(エフェソ、スミルナ、ローマなどの)に手紙を書きました。その中で、信徒は監督と長老団に一致服従していくことがイエス・キリストに従ふことなのだと言

います。ご存じのように、ローマ帝国の迫害の矛先はまず司教や司祭といった教会の指導者に向けられていました。奴隷や貧しく無学な人が多く信者となつていた時代ですから、羊飼いが倒れると、たちまち羊は散つてしまふ状況でした。従つて、指導者は死の覚悟がなければできない務めでした。

イグナテオスは「私は神の穀物であり、キリストの潔きパンとなるため獣の歯でひかれるのです。どうか獣が私の墓となるよう、また私が死んだのち誰かに迷惑をかけるといけません

から、獣が私のからだのどこも残さないよう、むしろ獣をあおつてくだささい」とまで言っています。

指揮系統が明確でなければ、迫害期を乗り切ることはできなかつたため、監督、長老、執事という階層的な職制は自然と受容されていったのでしよう。同時に指導者は「あなた方のいとも畏敬すべき監督、みごとに編まれた霊の冠なるあなた方の長老」と言われ

るような信仰厚く尊敬される人物でなければならぬことがその前提条件ではきま

ません。2世紀後半にリヨンの司教だつたエイレナイオスは異端に対して、われわれの教会においては全世界を通して真理の伝達は使徒継承の司教たちによつて守られるし、特にローマ教会はペトロ・パウロによつて建てられ、司教職はリヌスの手に継承され、今現在エ

レウテリウスが12番目の司教である、よつて教会の正統性は保たれていると主張しています。しかし同時にエイレナイオスは、使徒たちは後継者(継承者)がすべての点で完全で非の打ちどころのない人であることを望み、彼らが務めを誠実に果たすならそれは教会にとつて恩恵となるが、もし彼らが墮落するならば、ひどい不幸となるだろうと釘をさしています(「異端駁論」第3巻第3章)。

形式的・制度的に使徒継承がなされていれば、司教のすることはすべて正しいとはエイレナイオスはいっていません。この時代は聖書正典もまだはつきり定まつておらず、異端も続出し、迫害事件も生じる中で、懸命に司牧していた司教エイレナイオスの口から出た「使徒継承」は真実さと重みがあります。

以上のように、使徒教父たちやその後の初期教父に見られる使徒継承は、使徒から伝えられた教えを述べるだけでなく、それを殉教

く自責の念で苦しんだ。その後、自分のいいかげんな生き方を心から悔いることができたこと、「おねえちゃんの分も生きるんだ」と私は立ち上がることでできた。今までもたくさんあつたけど、不思議にも一番大事な時に、助けてくださった方が現れてくださった。自分が計画してその通りになることはなかつたけれど、導かれる通りに従つていて、いつのまにか乗り越えていた。電話の相談員として受話器の向こう側の方のそんな一助となれたらと思う。

行きなさいと「働きかけて下さつた方」がおられ、

その働きに従つて「行動して下さつた方」がおられたという、奇跡の積み重ねのおかげで今があるのだと感じる。私も「働きかけ」を感じた時には迷わずに「行動」できるように生きてゆきたいと願う。

「アイスクリームが食べたい」と姉の言うままに買って来て、口に入れてあげた。姉はおいしそうに食べたが、私はまったくのくわの空で聞いていた。「ゆかりありがとう」と聞こえた途端、一瞬のうちに逝つてしまつた。私は気が動転して、「おねえちゃんがおねえちゃん」と病院を走りまわつて病院の玄関で泣いていた。「アイスを、わたしが」と泣いて私を探し見つけて、看護師さんが「お姉さんはご自分の人生をまっとうされたのよ。あなたのせいではないのよ」と慰めて下さつた。わたしは「姉は人生を

弱さの中においてこそ IIコリント12・9 芝原ゆかり

取替の回(1)②

私が20歳の時、姉が初めての出産後28歳で帰天した。その死の瞬間に立ち会つたのは、私1人だつた。夜中に危篤の連絡で病院に集まつた義兄たち親族は、姉が小児状態を得て朝方それれに帰つてしまつたので

「アイスクリームが食べたい」と姉の言うままに買って来て、口に入れてあげた。姉はおいしそうに食べたが、私はまったくのくわの空で聞いていた。「ゆかりありがとう」と聞こえた途端、一瞬のうちに逝つてしまつた。私は気が動転して、「おねえちゃんがおねえちゃん」と病院を走りまわつて病院の玄関で泣いていた。「アイスを、わたしが」と泣いて私を探し見つけて、看護師さんが「お姉さんはご自分の人生をまっとうされたのよ。あなたのせいではないのよ」と慰めて下さつた。わたしは「姉は人生を

まっとうした」という言葉に許された気がしたのを覚えている。 思えば、不安に満ちた時、何をどうしたらよいか分らなくなつて、うるたか私に慰めることばをかけたことは、なんとこの恵みであつたか。「おねえちゃんはどうな話をしたの」と言う姉妹の中で、「アイスおいしかったのね。お姉ちゃん、のどが渇いていたのね」と言つてくれた涙の母が忘れられない。

それにしては何故私のよくない加減な者に姉の最期を看取させたのか。寝不足とはいへ姉の話を何も記憶にないとは。しばら

教会と社会をつなぐ耳
鹿兒島きぼうの電話
 TEL099-223-3399
 月曜日～金曜日
 (9時～16時/20～23時)

2021年手帳・カレンダー
販売中
 ※注文の受付は10月末日とさせていただきます。
ザビエル書院

の死で証明する(ギリシャ語で「証明」は、のちに「殉教」の意となる)という言行一致のものでした。のちの中世の異端審問官や高位聖職者の主張する使徒継承、その権威と権力は、それとはかなり異質のものであつたと言わざるを得ません。

*新井献編「使徒教父文書」、ジャン・ダニエル「キリスト教史1」、小高毅編「原典古代キリスト教思想史」、エイレナイオスについてはウェブサイトにNewAdvent参照。

モンテッソーリ教育の心を学ぶ

聖マリア学園がパート職員を対象にオンライン研修

コロナ禍で教区カトリック幼稚園研修会などが中止される中、聖マリア学園(泉浩二理事長)では、8月21日(金)、純心聖母会の鴨川いち子修道女(純心大学)を招き「モンテッソーリ教育」についての研修会を実施した。この研修はオンライン会議方式が利用され、あまり学習の機会に恵まれないパート職員を中心に4幼稚園から37人が学んだ。教区報では受講者の感想を紹介する。

聖母幼稚園 堂蘭 薫
はじめに学園研修を開いてくださり、ありがとうございます。なかなか勉強をする時間が作れなかったので、貴重な体験をさせていただきまし

た。また他の先生方とモンテッソーリ教育について分かち合う機会をいただいたことが



学生時代、私が初めてモンテッソーリ教育を知った時の感動。子どもたちが「静」と「動」を使い分け、整然としていく様子に驚き、またそれにかかわる先生たちの姿が、他の幼稚園とは異なり、教師も環境の一部だということに気づかされ、自分の姿を見つめ直すようになった経験

を忘れて、これからの理想の教師像に近づけるよう、日々努力し続けたいと思います。また歳を重ねるとついつい言葉数が多くなってきました

＝良書紹介＝ 十戒・主の祈り- 教皇講話集

若者へ向けられた「十戒」と「主の祈り」の解説が、ランシスコの34冊の講話にまとめられた。親が子にやさしく語りかけるように、教皇が一つ一つの戒のま



ペトロ文庫
定価 800円 (税別)

マルコとルカ福音書の両方に「汚れた霊に取りつかれた男をいやす」という話があります(マルコ1:21、28、ルカ4:31、37)。この男はイエス様に向かって「正体は分かっている」と叫びました(マルコ1:24c、ルカ4:34c)。直訳すると「私はあなたを誰であるのか(何であるのか)知っている」となります。ここで「分かっている」と訳された動詞は単に何かを知っているというだけではなく、「事実を」知っている、「見抜いている」、そして「承

知している」という意味があります。共に完了形で表現されています。つまり、汚れた霊はイエス様が神の独り子であることを既に理解していた

《康由神父の聖書教室(30)》

イエスの正体を知ること

この箇所です。注意したいことは「人々はその教えに非常に驚いた」という言葉です(マルコ1:22a、ルカ4:32a)。

ここで「驚いた」と訳された動詞は「びっくりする」、「驚愕する」、「そして(たまげて呆然となる)」という意味があり、共に未完形(受動)の「驚いた」と訳されています。人々はイエス様が神の独り子であることを十分に理解できなかったために、イエス様の教えに驚くだけでした。しかし、悪霊はイエス様の教えを聞くことがなく、イエス様が神の独り子であると既に分かっていました。だから「我々を滅ぼしに来たのか。」と完了形の「一形態で表現されている」と考えられます(マルコ1:24b、ルカ4:34b)。これによって聞いても悟れない人々と聞かなくとも悟っていた悪霊との比較が表現

が困ってしまうような子どもたちの行動の意味を思い出し、納得、反省することでした。また自分で選ぶことの大切さ、動作を丁寧に正確に、動作と言葉を別々に正確に、物的環境の準備、人的環境としてある自身の子どもへのかわりを見つめ直す機会となりました。

- また子どもたちの神様への祈り、お話を聞き、日常の中で神様を感じられる言葉掛けを大切にしていきたいと思われました。
- 良い学びの時間をいただきました。ありがとうございます。
- 4日(日) 年間第27主日
▼サンタマリア神父叙階記念(1970年)
▼朴奎奎神父霊名(聖フランシスコ)
5日(月) デクルス神父命日(1980年)
6日(火) みことばを祈る集い・ザビエル教会・10時
7日(水) 中野アカデミー・教区本部・19時
8日(木) 中野裕明司教叙階記念(2018年)
▼大松正弘神父命日(2018年)
▼福崎英雄神父叙階記念(1989年)
10日(土) 年間第28主日
11日(日) 福崎英雄神父叙階記念(1989年)
14日(水) 中野アカデミー・教区本部・19時
17日(土) 正義と平和協議会・教区本部・13時
18日(日) 年間第29主日
▼世界宣教の日(献金)
▼シノドス典礼部会・教区本部・14時
▼レジオマリエ鹿兒島コミチウム・谷山・14時
▼内野洋平神父霊名(聖ルカ)
21日(水) 中野アカデミー・教区本部・19時
24日(土) 大水如安神父命日(1994年)
25日(日) 年間第30主日
▼オリープの会及び共にこの道・教区本部・14時
28日(水) 聖シモン 聖ユダ使徒
▼中野アカデミー・教区本部・19時
▼ミタマヤ神父命日(1984年)
31日(土) 年間第30主日
▼司教日程 7日中野アカデミー、14日中野アカデミー、15日大口明光学園理事會、21日中野アカデミー、28日中野アカデミー
▼祈りの意向
世界共通 教会における信徒のミッション
日本の教会 医療や科学に携わる人々

会と催し 10月

+KABAYAN SEKSYON+

Tunay na Edukasyon sa Loob ng Pamilya

“Tungo sa mas Mahusay na Edukasyon ng mga Bata” ang pamagat ng ika-7 kabanata ng Ang Kagalakan ng Pag-ibig na isinulat ni Papa Francisco.

Ayon sa Santo Papa, “Sa mabuti man o masama laging may impluwensiya ang mga magulang sa moral na pagsulong ng mga bata.”

Kaya naman nararapat lang na “gampanan (ng mga magulang) ang tungkulin nilang ito nang buong-pag-iisip, masigasig, makatwiran, at naaangkop” (259), na gumagamit ng mga tradisyunal at mga makabagong pamamaraan sa paggabay sa kanilang mga anak, kasama na ang “paghubog sa pananampalataya” (287-290).

Kapupulutan din ng aral ang isang bahagi kung saan sinasabi ng Papa na “hindi edukasyon ang obsesyon. Hindi natin maitatagda ang bawat sitwasyon na maaring maranasan ng isang bata...Kung obsesyon ng mga magulang na laging alamin kung nasaan ang kanilang mga anak at pinipigilan ang lahat ng kanilang paggalaw, maaring masakop ng nila ang kapaligiran pero hindi ang kanilang mga anak”(261).

“Ngunit hindi ito ang tamang pagtuturo, pagpapalakas, at paghahanda sa kanilang mga anak sa pagharap sa mga hamon ng buhay. Ang pinakamahalaga ay ang kakayahan nilang matulungan ang mga anak na lumago sa kalayaan, maturidad, disiplinang pangkabuuan, at tunay na pagtayo sa sariling paa” (261).

Hinihiling ni Papa Francisco sa mga magulang na malugod nilang tanggapin kung nasaan ang kanilang mga anak sa landas ng maturidad.

Kailangan tingnan ng mga magulang ang Banal na Pamilya ng Nazaret, kung saan namuhay ang mag-anak sunod sa kalooban ng Diyos, at sila’y pinagpala.Pagpalain nawa ang bawat pamilya.

Katesismo Para sa Taon ng Parokya-Komunidad (Fr.Dino Orolfo)

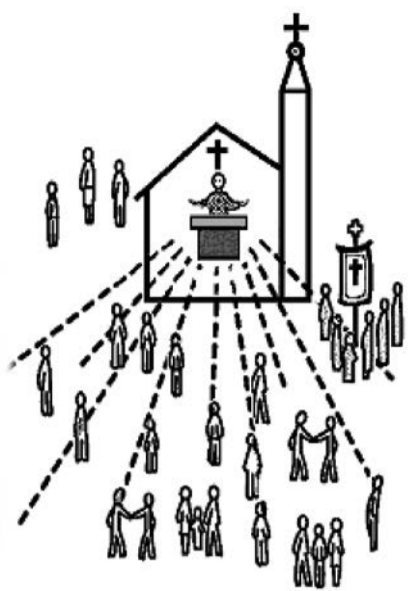
教区シノドス これからどう進む② 私たちのめざす小教区の姿

教区シノドス推進会事務局 長野 宏樹

シノドス提言書の表紙には「全員参加の共同体をめざして」という司教様の目標が提示されています。私たちが目している共同体の具体的な姿は「小教区」です。目指す小教区共同体とはどんなものかについて、アジア司教協議会連盟作成の資料を参考に考えてみたいと思います。

小教区の主任司祭は、多くの任務を担っています。仕事量が多すぎではなく、さらに「新しい小教区づくり」のためのさまざまな努力も続けられています。

現在の小教区の現状や組織が現代に生きる私たちの感覚や生活様式などと調和しているのか、もしそうでない面があるならどう変えていくべきか、と模索したり、試みたりしながら、さまざまな努力を行っています。そこで私たちが、主任司祭たちの努力を無にしないために、私たちの小教区がこれから進むべき方向や目標などを一緒に考えていきたいと思っています。



主任司祭中心の教会

提示していく予定です。提示される5つの状況を小教区の信徒と司祭と一緒に確認しながら、自分たちの小教区の現状を全体的に把握するためのお手伝いができれば、とありあえず所期の目的は果たせるものと考えています。

これから数回にわたって、さまざまな小教区の姿を提示していきます。そこで、それを基にして、それぞれの小教区で、自分たちに現在欠けているのはどんな点なのかを共に確認しながら、自分たちの小教区が「宣教する小教区」に変化していくためには今後どうしていけばいいかを共に模索していただければ幸いです。

まず最初は、「主任司祭中心の教会」の姿をながめてみることにします。

1.主任司祭中心の教会(別の言い方は「食べさせてくれる教会」)

(1)主任司祭の働き
左の絵は、主任司祭が中心的な働きをしている小教区の姿を表しています。

すべてを計画するのは主任司祭の仕事で、ミサの時間を決めたり、その準備をしたり、ミサ後のお知らせをしたりします。在宅や入院している病人を訪問するのも、彼の務めです。彼はまた告白を聞き結婚式を司式します。人々は問題をかかえて彼のもとに

出向き、助言を求めます。小教区のことでも知っている彼に聞けば分かります。

主任司祭には多くのことが期待されているのに、彼にはそれに応じることができないことも多々あります。あまりに多くのことがあるので、そのすべてを果たそうと努力すればするほど、疲れてしまうのです。

(2)信徒の態度
この絵に描かれた小教区の、信徒の動きを見てみましょう。

よう。家族連れ、あるいは2人が1組になってミサに行きます。1人で来る人もいます。彼らをつなぐものは、共通の信仰です。共に聖堂に集い、「主よ、私たちの祈りを聞き入れてください」と声をそろえて祈ります。また、普遍(カトリック)教会や自分たちの小教区のための、共通の忠誠を分かち合います。

信徒たちは、主任司祭が自分たちのリーダーだと認めています。罪の赦しや救霊のために必要なものをいただくことができる、この小教区に属しているのは幸せだ、と思っ

ています。日曜日にはミサにあずかり、聖体をいただきます。告白場へ行けば、司祭を通して罪の赦しを受けたいことができます。その他の秘跡もすべて受けることができます。また、誰かに物的援助が必要であれば、それが満たされることもあります。

信徒のこの「受身的」な態度は、旧教会法の規定に忠実に従ったものです。旧教会法では、一般信徒には、聖職者から霊的なものや罪の赦しのため

の大きな手助けを受ける権利、信仰教育を受ける権利、小教区の資金を管理する権利、という3つの権利が認められていました。これ以外の権利は特に認められてはいませんでした。

この教会法は、第二バチカン公会議の精神にもとづき、1983年に全面改正されました。この新しい教会法の中には、信徒の役割が肯定的・積極的な調子で描かれています。しかし、私たち信徒の態度はいまだに「受身的」であり、心の中には旧教会法の精神が生き残っているのです。

(3)種々の会の役割
信徒の中には、もつと教会の活動のお手伝いをしたいと思っている人々もいます。信心会や種々の活動会に参加している人(旗の回りに描かれている人)たちもいます。共に祈る、一緒に聖書を勉強する、病人訪問をする、教会に来ていない人を訪ねる、貧しい人々を助ける、聖堂を掃除する、などの活動会が活発な小教区もあります。

このタイプの小教区では、主任司祭は常に彼らの指導者であり、彼らはしばしば自分たちを主任司祭の手足だと考えています。

(4)振り返ってみれば
第一のタイプの「主任司祭中心の教会」像を見てきましたが、なぜこのような教会(小教区)になったかについても考えてみる必要があると思います。

明治初期の「キリシタン発見」当時の日本の信者たちの教育レベルは、皆無に等しい状況でした。その後、宣教師たちの涙ぐましい努力のおかげで、教育の機会に恵まれる者も少しは出てきましたが、信者全体から見ると、ほんの握りの人たちにすぎませんでした。

第二次大戦後も、昭和30年代までは、大部分の人が義務教育を受けるのが精一杯でした。高等教育を受けられるのはごく一部の人で、専門分野の知識はごく限られた人たちのみのものでした。

その中で聖職者は、その時代、多くの難民が戻ってきている。このような大きな仕事を成し遂げながら、中村医師は「人の幸せとは、3度のご飯が食べられて、家族が一緒に穏やかに暮らせることだ」と言っておられたことだ。また「アフガンには良い人も悪い人もいるが、それを含めて共に生きている」と言いながら、35年間、アフガニスタンや日本の多くの人々の心を支えとして、大きな事業を完成させつつある中で凶弾に倒れた。

クリスチャンでもあったという中村医師に聖書の次の言葉を贈りたい。
「もし一粒の麦が地に落ちて死ななければ、それは一粒のままである。しかし、死

の最先端で最高の教育を受けていたのです。ですから、信徒から見ると、「司祭は、神様の次に何でもできる存在」だったといえるでしょう。しかもこの状況は、長い教会の歴史の中で、延々と続いてきたものでもあるのです。

したがって、第二バチカン公会議までの小教区像とは、「主任司祭が祈り・研究し・実行し・責任をとる」という形にならざるを得なかったし、その形ですばらしい成果を収めることもできたのです。私たちは、その理想的な姿を明治時代活躍した長崎教区出津教会のドロ神父様に見ることができました。

今回見えてきた「主任司祭中心の教会」像は、そのような必然的な流れの中で誕生し、成果を収めてきた、と考えてもよいのではないのでしょうか。

次回は、第二のタイプの小教区像として「活動団体中心の教会」について考えていきたいと思っています。



ねば、豊かな実を結ぶ」(ヨハネ12・24)
今後、ペシヤワール会が中村哲医師の志を種として事業を継続し、アフガニスタンと周辺の国々の人々の平和実現のために支援の輪が広まり、豊かな実を結ぶことを祈りたい。

※参考「ペシヤワール会報号外」
(指宿教会 永井勲)

▼社会問題の分かち合い
日時：10月17日(土)
(毎月第三土曜日)
13時～16時

場所：教区本部
内容：原発・改憲・沖縄問題についての情報交換その他

場 所：教区本部
内 容：原発・改憲・沖縄問題についての情報交換その他

KJJP (鹿児島正義と平和協議会) 通信 10月号

中村哲医師の死を悼む

2019年12月4日(水) 中村哲医師がいつものようにジャララバードの宿舎を出て作業場に向かう途中、何者かに銃撃され、病院に移送された後、亡くなった。享年73歳。車の運転手ガイヌッラー・モースムさんと4人の護衛の方々も殉職した。
アフガン山岳部に住む貧しい人たちが簡単な病気で亡くなつていくのを知って、中村医師は1984年5月にペシヤワール・ミッジョン病院に赴任した。パキスタン北西

辺境州でのハンセン病根絶計画を担うためであった。ペシヤワール会では中村医師の医療活動を支えるために、その前年に700人の仲間を充足した。当時のペシヤワールには3百万人を超える難民が押し寄せていた。1986年にはJAMS(ジャパン・アフガン・メディカル・サービス)を、それを核にPMS(ピース・ジャパン・メディカル・サービス)基地病院を、山岳最深部にも幾つかの診療所を造った。
2001年「9・11事

件」後の米軍によるアフガン空爆の時には、飢えや寒さで餓死寸前の20万人以上の人々に小麦粉や食用油も届け、首都カブールに臨時診療所を5カ所設置した。そういう戦乱の中、2000年から大干ばつが起こり、「人々の命を助けるために必要だから」という理由で井戸と農業用水路を掘ることを決意、それを黙々と実践していった。

井戸を掘り、用水路や堰を造り、1万6千5百畝の大地を緑に甦らせた。工事には日本伝統工法が多用され、取水部では、福岡県朝倉市の山田堰をモデルに「斜め堰」を築造した。現地ではこれをPMS方式という名でアフガンに根付かせ、農地を復旧・拡